



## 2023年5月 診療カレンダー

住所：東京都中央区日本橋大伝馬町13-8  
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階  
TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

## 2023年6月 診療カレンダー

日	月	火	水	木	金	土
30	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31	1	2	3

・中央区検診  
はじまりました  
子宮頸がん・帯状疱疹  
ワクチン接種  
実施中

ホームページ  
院長ブログ公開中

18時最終受付

日	月	火	水	木	金	土
28	29	30	31	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	1

「今月の言葉」  
都市とは、その通りを歩いているひとりの少年が、  
彼がいつの日かなりたいと思うものを  
感じ取れる場所ではなくてはならない  
～ ルイス・カーン(建築家)～

一般診療	月	火	水	木	金	土	日
10:00-13:00	●	●	●	●	●	●	×
15:30-19:00	×	●	●	●	●	×	×

●9:00-12:30

さて、このGWは学習院のほかにもレトロな建物を訪れる機会に恵まれました。そのうちのひとつは丸の内にある「明治生命館」です。こちらは岡田信一郎が設計した建物で戦後一時GHQによって使用されていたこともあります。こちらの建物はTBSドラマ「半沢直樹」をはじめドラマのロケ地として使用されることもあり、目にされた方も多いと思います。木製の扉が開きレトロなエレベーターに乗り、2階へあがると別世界。当時使われていた会議室や応接室など歴史を感じさせる豪華な立派な部屋が並んでいます。「明治生命館」の1階部分は現在も使われているとのことで、吹き抜けから見下ろす1階は受付カウンターやデスク、PCが並び、会社のキャラクターが置かれていたりして、何ともミスマッチな感じがしました。

お知らせ  
・5月から発熱の方はお電話で予約受診してください

東京レトロ建築散歩

みなさま、今年のゴールデンウィーク(GW)はいかがお過ごしでしたか？当院は4/29から5/5まで休診させていただいたので、ひよっとするとゆっくり旅行満喫か？と思われたかもしれませんが、4/29は発熱外来、5/1, 2は妻も仕事、子供たちもそれぞれ学校があり、旅行はせず近場で過ごすことにしました。

GW中に私は高校時代の同級生のK君に会いました。彼とは卒業以来ですから約35年ぶりです。我々の卒業した高校では4年毎(ちょうどサッカーのワールドカップイヤー)に同窓会を開いており昨年が同窓会の予定でしたが、コロナ禍のためリアルでは開くことが出来ずZoomで行われました。そのZoom同窓会で再会したのが高校2年生の時に同級生だったK君です。彼は当時吹奏楽部に所属していましたが、当時クラシック音楽のことも非常に詳しく、カントロフの演奏するラヴェルのヴァイオリン・ソナタ、フィッシャー=ディースカウの歌う「冬の旅」などを私のためにテープにダビングしてくれました。このような選曲のセンスや演奏家のチョイスは当時の自分にはなく、とても新鮮で大きな影響を受けました。私が大学時代、夢中になった指揮者のカルロス・クライバーの存在を初めて知ったのもK君からでした。K君は高校卒業後、大学で西洋美術史を専攻し、研究者として20年近く地方の国立大学で教鞭を取っていたようですが、数年前に学習院大学の教授に就任し、現在は東京で暮らしています。Zoomの同窓会の後、実際に会おうということになり、この連休中に学習院にある彼の研究室を訪れました。

そのほか東京都庭園美術館の「旧朝香宮邸」にも行きました。こちらは旧宮家である朝香宮家が1933年に本邸として建てた邸宅で、1920年代から30年代にかけて欧米を中心に世界中で流行したアール・デコ建築を日本に伝える貴重な建物です。この建物は戦後吉田外相・首相公邸として使われたり、国賓、公賓の迎賓館「白金迎賓館」として使用されたりしていましたが、現在は東京都庭園美術館として一般公開されています。今回は「邸宅の記憶」というテーマの展覧会で旧朝香宮邸に関連した写真や映像資料、工芸品、調度品、衣装など隅から隅まで楽しむことができました。「旧朝香宮邸」は朝香宮鳩彦様と奥様の允子様がフランス滞在中に影響を受けたアール・デコへの思い入れがたっぷり詰まったもので、建物に情熱を傾けた允子様が完成後1年も経たずに42歳という若さで亡くなっていることに驚きましたが、戦火をくぐりぬけて綺麗に残っていることに本当に感銘を受けました。

学習院大学はご存知のとおり、歴史のある大学ですので、戦前・戦後の由緒ある建物も多く残っています。そのいくつかの建物をK君は解説しながら彼の研究室まで案内してくれました。彼の専門は西洋美術史ということで研究室の本棚という本棚にはおびただしい量の関連書籍が並んでいましたが、聞くところによると、最近では大衆演劇など多方面にわたり興味も広がっているとのこと、室内にはノスタルジーを覚えるような昔の人形や小物も所狭しと置いてありました。その中でも目を引いたのは100年前のSPレコードと蓄音機です。SPレコードと蓄音機は以前から知っておりましたが、その音の出る原理や使用方法は全く知りませんでした。実際にK君がゼンマイを回し、回転するSPレコードにそっと針を置くと、蓄音機から時空を超えて、温かなワルツの音色が聴こえてきました。電力なしに出てくる蓄音機の音色に何とも心を揺さぶられました。

ところで先ほどのK君が学習院大学へ移ることを決めた理由の一つに勤めていた国立大学の移転があったそうです。それまでは都心にあったキャンパスが郊外に丸ごと移転することが決まり、利便性が失われ、歴史的価値と伝統のある場所から移ることがかなり苦痛だったようです。一方で学習院は都心にありながら緑も多く古いものを大事にするところがあって、過ごしやすいと言っておりました。

東京には多くのレトロ建築があります。レトロ建築はそのスタイルに心惹かれるところもありますが、何といてもその建物を大事に残そうという人の心が感じられるところが自分にとっては何とも嬉しいところです。皆さまも休日には、のんびりと自分に合ったレトロ建築探しの散歩に出かけられてはいかがでしょうか？